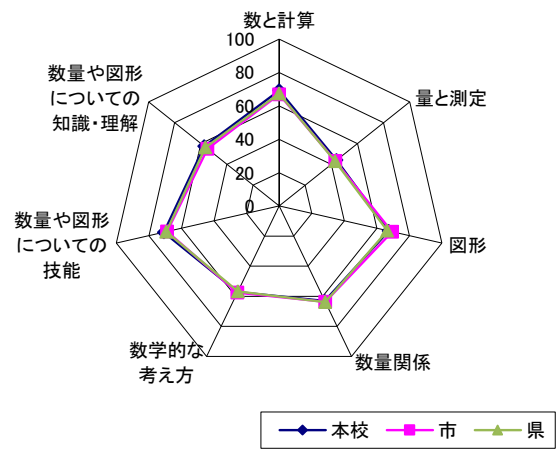


宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	66.9	67.4
	量と測定	44.1	43.2	43.0
	図形	67.3	69.4	66.5
	数量関係	63.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	57.1	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	70.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	57.3	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の平均正答率は、69.2%で、県の平均を1.8ポイント上回っている。 ○「基準値よりも比較量の方が小さい場面で何倍かを求める」問題の正答率は60.3%で、県の平均を11.3ポイント上回っている。 ●帯分数－真分数の問題では、70.5%と県の平均より1.6ポイント下回っている。	・帯分数を仮分数に直す仕方を定着させ、授業や朝の学習、家庭学習などを活用し、計算練習の機会を多く設定し、同様のパターンの問題に慣れていけるようにする。
量と測定	○量と測定の平均正答率は、44.1%で、県の平均を1.1ポイント上回っている。 ○「はがきのおよその面積を選ぶ」問題の正答率は42.3%で、県の平均を6.6ポイント上回っている。 ●「1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚分か求める」問題の正答率は51.3%で、県の平均より2.6ポイント下回っている。	・「1m＝100cm」という公式を用いれば正答できる問題であることに気付けるような、読解力を身に付けさせていく。 ・単位の換算を定着させるために、授業中に復習として既習のことを思い出させたり、掲示物等を工夫したりする。
図形	○図形の平均正答率は、67.3%で、県の平均を0.8ポイント上回っている。 ○「平面上にあるものの位置を表す」問題の正答率は82.1%で、県の平均を8.1ポイント上回っている。 ●「与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成させる」問題の正答率は52.6%で、県の平均より6.5ポイント下回っている。	・作図に必要な、「図形の性質を理解し、かき方が分かる」とこと、「誤差のないように正しくかける」とことの両方を身に付けさせるために、図形の性質を丁寧に指導し、用具の操作に慣れる機会を設定していく。
数量関係	●数量関係の平均正答率は、63.1%で、県の平均を0.8ポイント下回っている。 ○「アイスクリームを買った合計金額が一番少ない月を書く」問題の正答率は87.2%で、県の平均を6.1ポイント上回っている。 ●「ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す」問題の正答率は47.4%で、県の平均より13.5ポイント下回っている。	・「ブロックのならべ方」と「ブロックの個数」をそれぞれで読み取るのではなく、相互に関連付けて、規則性を見つける練習を行っていく。 ・普段の授業でも、問題の場面を記号を用いて立式する機会を設け、○や△等の記号を用いて式を立てることに慣れさせていく。